



1. コミュニケーション誌シーマニアの創刊について

木内貴弘

担当理事、東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学分野

2021年から2022年にかけて、日本ヘルスコミュニケーション学会から日本ヘルスコミュニケーション学関連学会機構への改組を行い、開催する学術集会名をヘルスコミュニケーションウィークに変更しました。またこの改組と並行して、分科会の増設も行い、現在、分科会の数は9つとなっています。これらにより、順調に会員数も増えつづけている他、会員の研究内容の多様性も増してきています。こうした現状を踏まえて、機構と会員、及び会員間のコミュニケーションに資するために、ヘルスコミュニケーション学関連学会機構のコミュニケーション誌として「シーマニア (Seemannia)」を創刊することにいたしました。シーマニアは、南米原産の多年草で、赤、オレンジ、黄色の花を数多く咲かせます。名前の由来は、ドイツの植物学者 Barthold Carl Seemann (ドイツ語風の読みは「ゼーマン）」です。その多くの花がお互いに活発におしゃべりしているように見えることから、花言葉は、「コミュニケーション (communication)」、「繁栄 (prosperity)」となっています。この花言葉は、ヘルスコミュニケーション学関連学会機構、ヘルスコミュニケーションウィークに相応しいため、機構やヘルスコミュニケーションウィークのロゴにも採用されています。

コミュニケーション誌シーマニアは、今年度は、とりあえず年1回の発行とし、本号が創刊号になります。その内容は、多くの学会でニュースレターとして発行されているものに概ね相当します。会員からの声を重視し、片方向のニュースではなく、コミュニケーションにしたいという考えから、またコミュニケーションを標榜する機構であることから、敢えて「ニュースレター」ではなく、「コミュニケーション誌」と称することにしました。内容については、理事会で十分な検討を行った結果、創刊号は目次のような内容となりました。原稿を依頼しやすかった理事会関係者からの原稿が多くなっていますが、次号以降は一般の正会員、学生会員にも広く原稿依頼を行う予定です。

シーマニアに関して、ご意見、感想、掲載して欲しい記事等についての要望等があれば、是非機構事務局 (hcwo-admin@umin.ac.jp) までお寄せください。また会員からの寄稿も受け付けています (内容的に掲載できない場合もありますので、原稿を書き始める前に寄稿予定の原稿の概要を事前にお知らせください)。今後とも会員サービスの向上に努めてまいりますので、ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。